



介護保険施設の HIV ケアと学校基盤の HIV 予防における 拡大戦略の研究

研究分担者：佐保美奈子（大阪府立大学大学院看護学研究科）

研究協力者：下線はグループリーダー

1 看護職のボトムアップとエンパワメント

山田加奈子（大阪府立大学大学院看護学研究科）

高橋 弘枝（公益社団法人大阪府看護協会 会長）

千葉 鐘子（公益社団法人大阪府看護協会 専務理事）

中垣 郁代（公益社団法人大阪府看護協会教育部）

久光 由香（近畿大学附属病院看護部 感染症看護専門 看護師）

大野 典子（日生病院看護部 感染症看護専門 看護師）

王 美玲（大阪市立総合医療センター看護部）

橋本 美鈴（大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター 感染管理認定看護師）

鈴木 光次（看護師）

立花 久裕（訪問看護ステーション町の看護師さん八尾）

上原 優子（国立榊原病院 精神保健福祉士）

2 介護保険施設における教育と研修のアプローチ

泉 柚岐（信愛女学院短期大学看護学科）

西口 初江（羽衣国際大学人間生活学部）

井田真由美（堺市立総合医療センター看護部）

井内公仁子（まごころケアマネージャー事務所）

澤口智登里（大阪市北区保健福祉センター）

豊島 裕子（大阪市立総合医療センター看護部）

熊谷 祐子（みのやま病院看護部）

岡本 友子（ハシイ産婦人科看護部）

繁内 幸治（BASE KOBE 代表）

3 高校生への HIV 予防啓発と養護教諭への教育と研修

古山 美穂（大阪府立大学大学院看護学研究科）

北川未幾子（大阪府立大学大学院看護学研究科）

橋弥あかね（大阪教育大学教育学部養護教諭養成課程）

工藤 里香（京都橘大学看護学部）

高知 恵（大阪府立大学大学院看護学研究科）

大川 尚子（関西福祉科学大学健康福祉学部）

池田麻衣子（大阪府教育センター附属高等学校 養護教諭）

眞弓 靖子（大阪府立緑風冠高等学校 養護教諭）

賀登さおり（大阪府立泉北高等学校 養護教諭）

牧之内純子（特定非営利活動法人ピープルズホープジャパン）

研究要旨

地域 HIV 看護の質の向上と拡大戦略に向けて、①介護保険施設で勤務する看護・介護職への研修を企画・実施、② HIV サポートリーダー養成研修の受講生募集地域を大阪府内から近畿ブロックに拡大、③学校基盤の HIV 予防教育の強化のために、養護教諭養成課程を担当する教員との協力体制作りを行った。研究テーマである、介護施設への啓発と高等学校での HIV 予防教育を支える看護職のボトムアップについての基盤ができてきた。

研究目的

HIV 研修により看護職のボトムアップをはかり、介護保険施設における HIV 研修を企画・実施・評価する。HIV 予防については、学校・養護教諭と協働して、高校生への予防教育を拡大する。

研究方法

HIV 研修前後の知識・態度の変化をアンケート調査した。

(倫理面への配慮)

アンケートの実施にあたっては、学会や報告書において内容を発表することについて了解を得たうえで、協力は自由意志であること、匿名での記入であること、語った内容については、個人が特定されないように配慮すること、希望時は調査結果を知らせること、個人情報の保護について説明をおこなった。調査は大阪府立大学大学院看護学研究倫理委員会の承認を受けて実施した（承認番号 27 - 25）。

研究結果

I 介護保険施設で勤務する看護・介護職への研修を企画・実施

平成 29 年 8 月 堺市役所介護施設長会議にて「HIV 感染症について + 標準予防策演習」の出前研修の広報活動実施。現在まで 3 施設への出前研修を終了した。

1. 研修実施施設

堺市社会福祉法人 稲穂会 やすらぎの園	17 名
堺市社会福祉法人 さつき会 延命荘	29 名
堺市社会医療法人 生長会 ベルピアノ病院	16 名
	計 64 名

2. 研修内容

研究班で作成された DVD の視聴を中心に研修を実施した。施設担当者からの依頼の理由は、「HIV について知る機会がないから」「施設長から勧められ

た」「標準予防策の研修を毎年実施するが、行き詰まっていた」「もしかしたら、自施設患者をみることもあるかもしれないから」であった。手袋・マスク・ガウンなどの衛生材料については、施設で普段使用しているものをできるだけ使用し、内容については上記及び、「HIV 患者の療養・患者の思い」を伝えた。研修は、依頼のあった日時に併せて、約 1 時間程度とした。

3. 研修の効果

研修を受けられた感想には、「正しく知れば、怖くない」「自分の情報は昔のままだった」とのことで、現在では、内服治療を適切に実施していれば、ウイルス量はほぼ 0 におさえられること、今や慢性疾患になるまでに治療が進歩していること、感染率は B 型肝炎、C 型肝炎よりかなり低い事、等伝えると驚かれている様子であった。かつてのエイズパニックの情報のままで、新しい情報に更新されていない状況と推測できる。正しい情報を得ることで、介護施設で働くスタッフたちの感染に対する不安や偏見の軽減につながると考える。今後も広報活動を適切に実施することや研修を受けた口コミで、研修依頼はあるものと思われ、顔の見える関係を作ることで、患者の円滑な療養支援の拡大につなげたい。次年度以後、年間 10 施設程度の出前研修を実施予定である。

介護職の方に知っていただきたいこと(DVD)

研修用資料 地域 HIV 看護の質の向上に関する研究



介護職として、知っておきたい 10 のこと

Ⅱ 看護職のボトムアップとエンパワメント

今年度から年 2 回の HIV サポートリーダー養成研修を 3 日間から 2 日間に濃縮して実施した。大阪府外（京都、滋賀、兵庫、広島）からの参加者はこれまでで合計 15 名であり、着実に増加している。これまでの 15 回で受講者数は 278 名である。HIV 感染症の医学的な情報だけではなく、幅広くセクシュアリティ教育として「性の多様性」「思春期からの性感染症・避妊」の内容も含め、楽しいアクティビティを盛り込んだ楽しい研修という評判が広がってきた。詳細は、別添アンケート調査結果を参照。

看護師養成機関においても HIV 感染症については十分な内容を教育されていないので、研修には看護学部生を含めて看護職のボトムアップを今後も図る。

研修の修了生には、出前講義への参加や HIV ネットワーク会議への参加を勧めている。研修の講師として講義をおこなう機会を今後も作っていき、一般の看護職が高校への出前講義や研修など、病院以外の場面で活躍できる場を提供する。

看護職への研修は、大阪府看護協会での実習指導者講習会（80 名×3 回）、国立大阪医療センター（40 名×2 回）、全国教務主任養成研修（30 名）で実施した。

Ⅲ 高校生への HIV 予防啓発と養護教諭への研修

- ① 第 15 回 HIV サポートリーダー養成研修には、関西福祉科学大学の養護教諭養成課程の学生 8 名と教員 1 名が参加した。
- ② HIV サポートリーダー養成研修修了者に出前講義等の登録希望調査を実施し、高等学校からの出前講義の要請にこたえていく。
- ③ 高等学校への出前講義（一斉講演）年間 15 校
- ④ 高等学校へのクラス単位の STI/エイズ予防教育を 2 校に実施した。1 校あたり、20 名近くの臨床看護職が参加し、次年度以降も積極的な協力者が確保できた。

考 察

介護保険施設での HIV 陽性者の受け入れを促進するための研修が拡大した。今年度は 3 件であったが、次年度以後は年間 10 件程度まで増加する予定である。

HIV サポートリーダー養成研修と高校生への出前講義、大阪府看護協会が主催する看護職研修、大阪府教育委員会が主催する研修、高校生への出前講義

について、次年度以降も実施していく。

結 論

看護・介護・学校現場でのケアと予防の拡大のための基礎作りが出来たので、さらに研修・教育内容を洗練させ、質の向上をはかる。

健康危険情報

該当なし

研究発表

1. 論文発表

該当なし

2. 学会発表

佐保美奈子、古山美穂：セクシュアリティと看護－助産師が行うセクシュアリティ支援と出張性教育授業を活用した教育と福祉をつなぐ取り組み－。第 37 回日本性科学学会学術集会 シンポジウム I、2017 年 10 月、大阪

佐保美奈子、安井典子、三澤朋洋、泉柚岐、西口初江、堀有優美、田中彩水、岸本晶愛、白阪琢磨、古山美穂、山田加奈子、高知恵：大阪市 A 地区における介護職の HIV 研修の検討。第 31 回日本エイズ学会、2017 年 11 月、東京

泉柚岐、佐保美奈子、西口初江、豊島裕子、井田真由美、井内公仁子、熊谷祐子、岡本友子、白阪琢磨：介護保険施設における感染症予防研修。第 31 回日本エイズ学会、2017 年 11 月、東京

佐保美奈子、渡邊香織、中嶋有加里、古山美穂、山田加奈子、高知恵、工藤里香、黒田裕子、小笠幸子、稲井裕見子、上原明子、越智奈穂美：教育・医療現場における性的少数者・性の多様性への理解増進に向けて。第 37 回日本看護科学学会、2017 年 12 月、仙台

知的所有権の出願・取得状況（予定を含む）

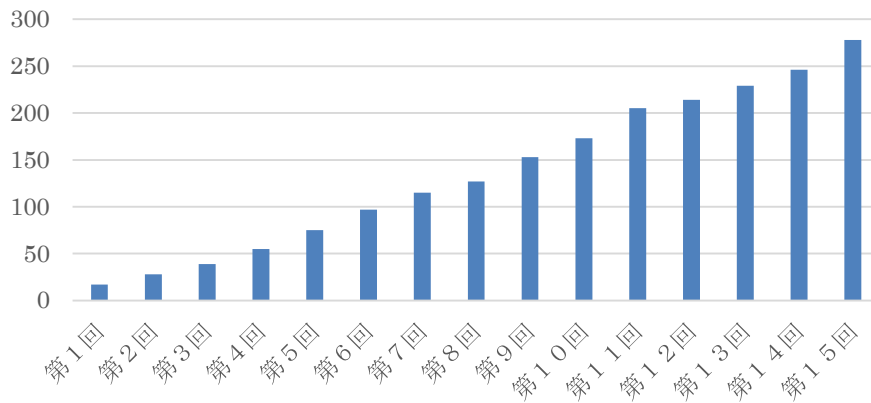
該当なし

HIV サポートリーダー養成研修のまとめ（第 15 回まで）

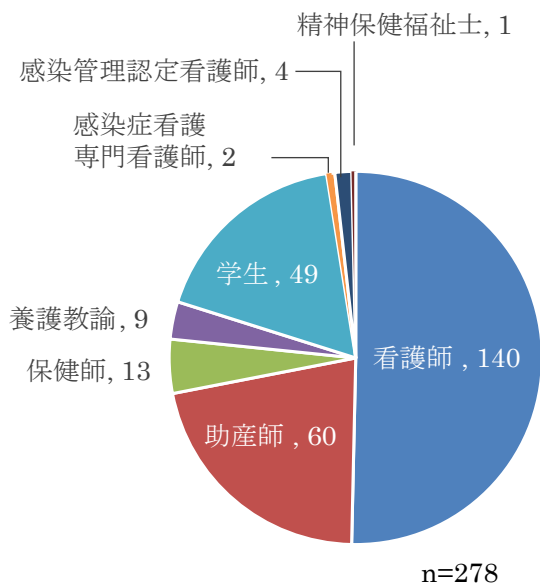
1. 受講者数

これまでの受講者数は 278 名である。

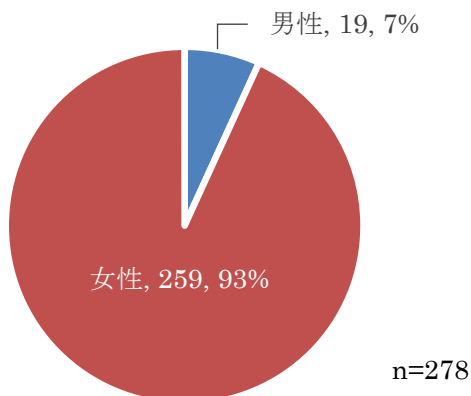
HIVサポートリーダー養成研修 受講者数



2. 受講者の職種



3. 受講生の性別

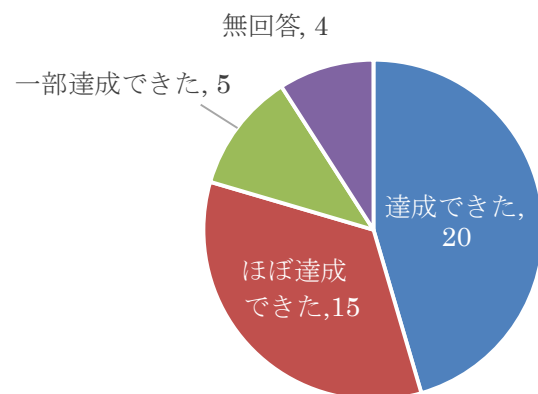


4. 調査票の回収数（第 14 回、第 15 回）

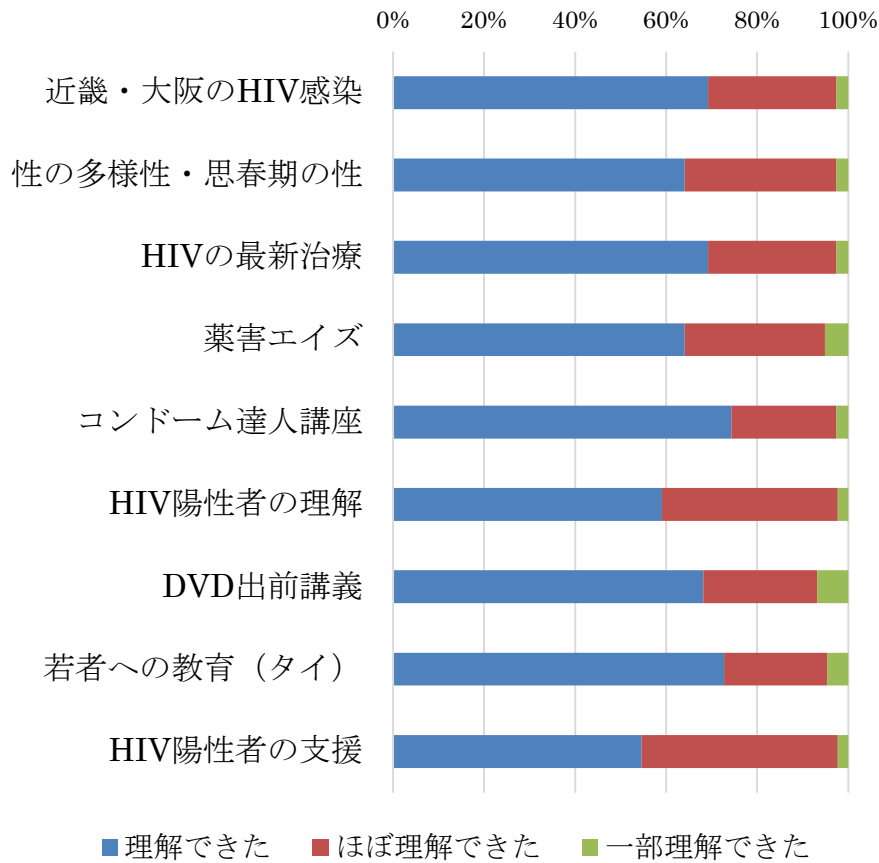
参加者 49 名 回収数 44 回収率 89.8%

5. 研修目標の達成度

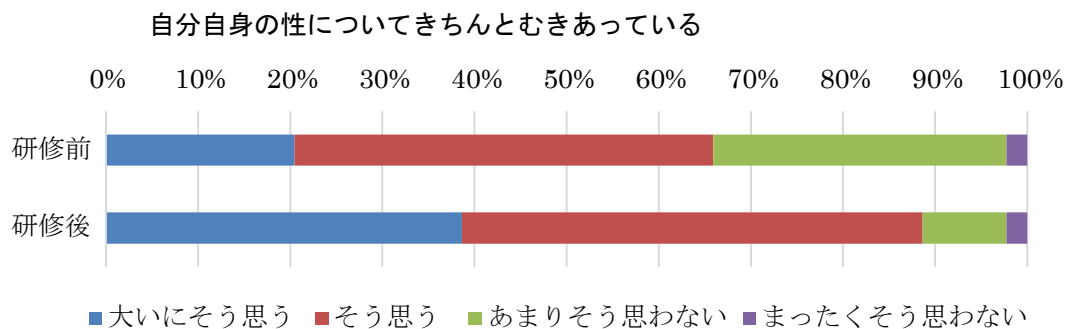
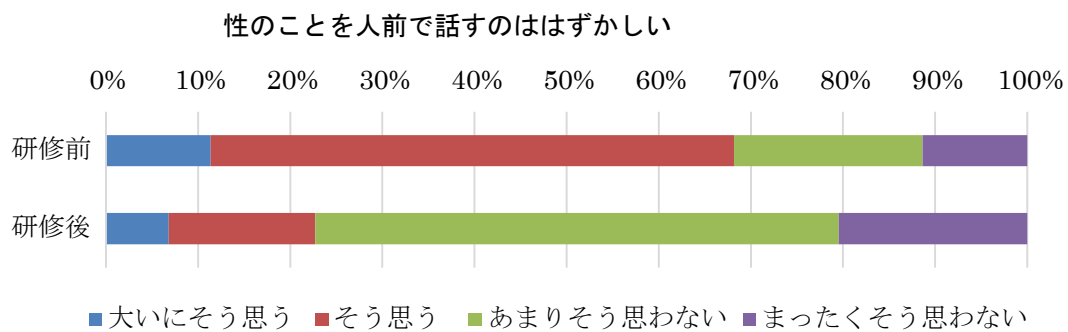
研修目標：セクシュアリティ、HIV感染症について広く学び、HIV陽性者への初期対応、高校生へのHIV予防前講義に必要な態度・知識・技術を得る



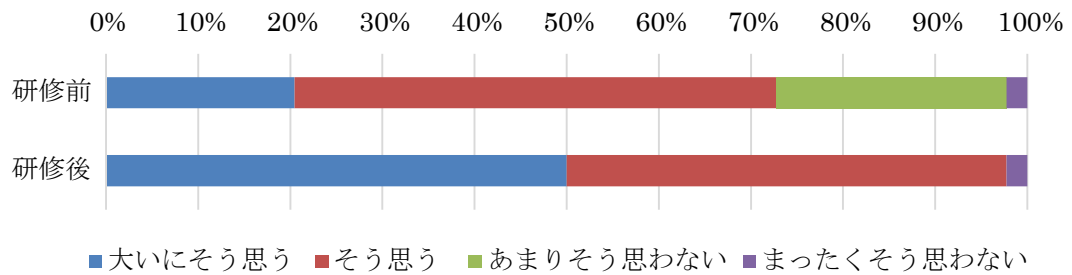
6. 講義別理解度



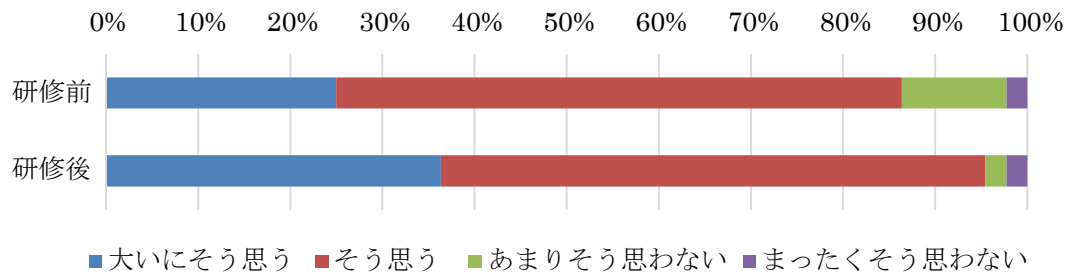
7. 態度の変化



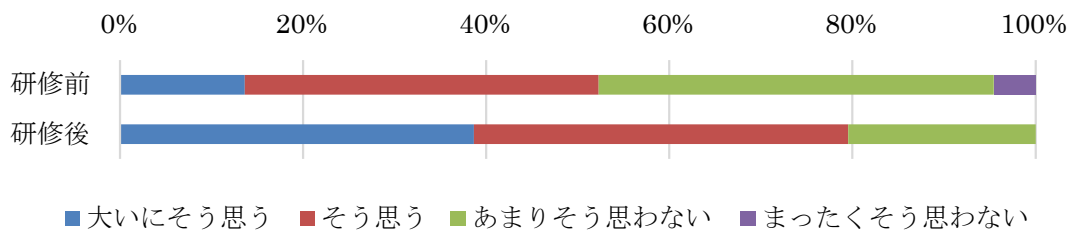
HIV 看護について興味を持っている



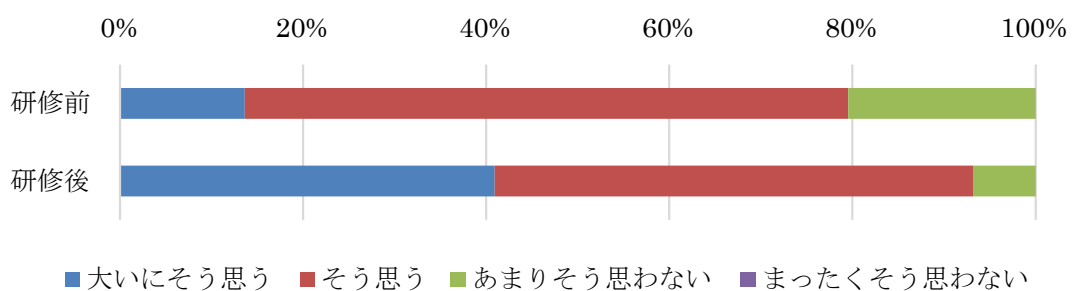
性欲は基本的な欲求の一つであり大切にしたい



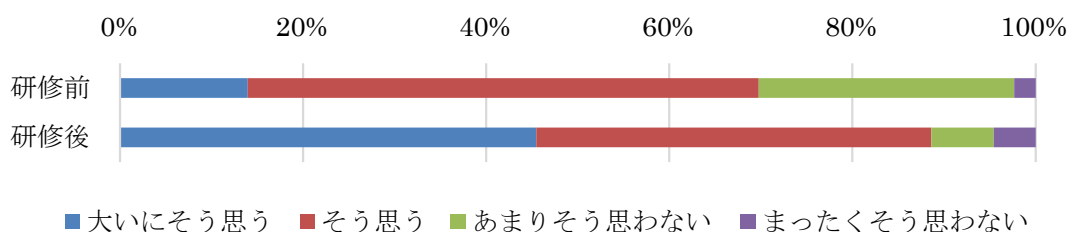
HIV予防教育の出前講義に積極的に関わりたい



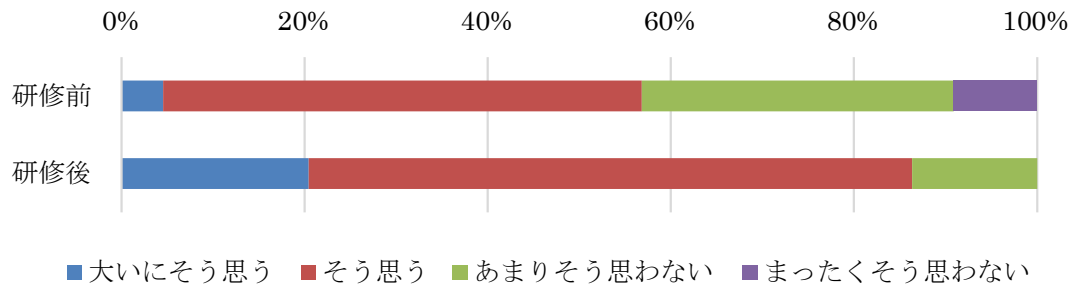
セクシュアルヘルスの増進について学びたい



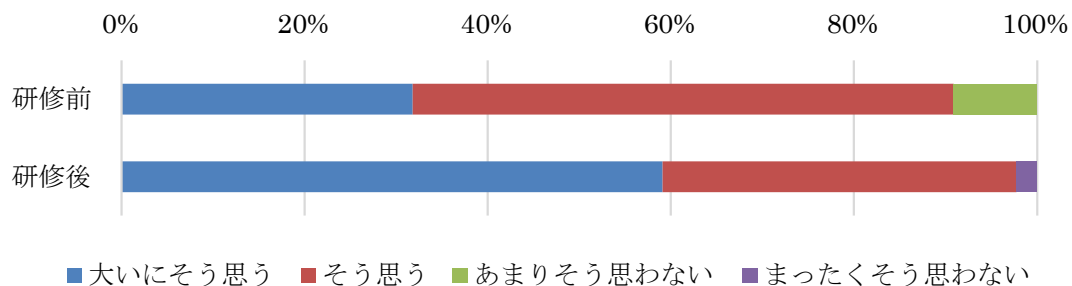
自施設で、HIV 陽性者のケアへの準備をしたい



グローバルな広い視点で看護を考えている



他者と深く関わることは喜びである



8. 自由記載（平成 29 年度開催の第 14 回・第 15 回分のみ、原文のまま）

①看護職が地域の高校生に出前講義をおこなうことについて、職場の理解・自分自身の課題など自由にご意見をお書きください。

（第 14 回）

1. 伝える能力が足りない。
2. 学校の先生が行う講義より、現実的な講義が行えるなら、どんどん増やしていけたらと思います。私に勤務する職場では、まだまだ外に向けての教育は無理かと思っています。
3. 公立学校は教育内容にかなり厳しく、ぼんやりとした内容になりがち。コンドームの使用も避妊を強要するイメージと思っている先生も多く、先生方の教育が大切だと感じる。
4. 自分の高校生の時の頃を思い起こすと教科書レベルのことしか教わらなかった。今回、講義を受けて、性についてのはずかしさとか、もっと取り払って、自由に語れる場があれば、もっと正しい知識が広まるのではと思いました。
5. 職場はタイミングが合えば、病院目にコマーシャルになること、少し病院の専門性のアピールになれば、協力が得られやすいかと思う。
6. HIV について看護師としてかかわることは興味があり、多くの人に伝えていきたいと思う。どんなスキルが必要か、自分に何が足りないかを明確にして、地域や社会に役立てる様に取り組みたいと思う。

7. 看護職が地域の高校生に出前講義を行うことは、指導する側にも勉強になると共に、学生の知識の向上につながると思いました。HIV 発症は、20-30 代に多く、若い頃からの予防がとても大切になってくるので、講義を行うことはとても重要だと思いました。
8. 看護職が高校に出向くことで、ロールモデルにもなり、医学的な見地から正しい知識を与えることが出来ると思う。コンドームの実技などもう少し進んだ教育が出来るとういようなあと思いました。ぜひ、古い価値観にしばられた教育内容からの脱出を進めてください。
9. 自分自身の課題としては、人前で話すことに慣れておらず、また高校生に講義をおこなうという大きな責任を担うということに自信が持てません。だいじなことであるということは重々わかっているので、余計こわいです。自信がついたら参加したいです。
10. この時代、教育が非常に大切なことは十分理解できる。個々のプレゼンテーション能力に違いがあり、講義を行うには、トレーニングが必要だと考えます。
11. 学校から直接病院に依頼があった時は、出勤扱いで講義に行っていました（私ではなく他のスタッフ）。学校の先生との調整に時間を要して、準備が大変そうでした。
12. 出前講義を行っている現状を知らなかったのので、正直おどろいています。感染拡大をしないためにも講義を行う必要性を改めて感じました。まだまだ教育をするほどの知識はないですが、いつか自分にも出来ることがあればと考えています。
13. 自分自身の課題：単純に人前での講義に自信無い。準

備などの時間がない。勉強不足。

職場の課題：個々の休暇の活動の範囲をこえないかも。もしくは、面倒な手続きがいるかも。地域貢献に興味ない感じがする。

14. 看護師が出前講義をしていることに驚きました。学校の先生がされるより、現場で身近に対応したり、経験のある指導者が教育することで学生さんにより伝わると思います。私たちが学生の頃にもこういう教育があればよかったな～と思います。

(第15回)

1. 私は看護職から養護教諭になつたので、命の大切さ・HIV（性感染症）について、伝えていける立場であると考えていました。しかし、今回の研修で知識が足りないこと、伝え方に工夫が必要な事、たくさんまだまだ学ぶ必要があることに改めて気づきました。今後、自分の課題について、しっかりと学び、生徒に伝えていけるようになりたいと思いました。
2. 看護師としての経験もまだ浅いため、出前講義などはまだまだ難しいと思う。改めて学ぶことの必要性を感じました。
3. 大阪ではされているが、兵庫県でも出前講義を行っているかわからない。しかし、ぜひ行いたいと思っている。職場の理解は得られると思う。（私がHIVに熱い&セクシュアリティに熱いことを周知してもらっているの）。ただ、外来における人手不足が年々増してきているので、日程調整が限られるかもしれない。でも、熱さで押し切りたい！！
4. 看護職者が出前講義していることを今回の研修ではじめて知りました。看護師の食の幅への多様性を感じました。また、学校教員ではなく、看護職だからこそ伝えられることがあるのだと学びました。
5. 職場の考えとしては、高校の講義は養教が行えるよう支援するのが保健師の役割という考えが強く、なかなか上司の理解の元、講義は行きにくいことが課題。また、保健所業務はHIVに対してより、結核や感染症（集団発生時）等への比重が高い中、地域のHIV/AIDSの知識力を向上させるにはどうしたらいいか、自身の課題。
6. HIVやAIDSを怖いものとして認識させないようにすることが大切だとわかった。性に対する考えは人によって十人十色であること、多様な性のあり方を尊重できるように関わっていきたくて感じた。
7. 院内の業務以外に今年度の目標としてあげているので、実践に向けて準備したい。院内の人、京都のネットワーク、行政をまきこめれば！
8. 教育の場実際に働いている現場の看護職が出向くということは、今まで養護教諭が行っていたため考えられなかったと思われる。一看護師が出前講義を行うには、職場がHIV感染予防にどれくらい理解があるかによるので難しい問題も多いと思う。私個人としては自分の出来ることを自分らしくやっていけたらと思います。
9. 今度、高校での性教育を始めてさせていただくのに、今回の研修で勉強となったところはたくさんあります。子どもたちが正しい知識をもって性に関して積極的なれるような時間となればよいなと思います。
10. 自分自身が高校生の頃、保健の授業でHIV/AIDSについて、しっかりと教えてもらったことを思い出しました。その授業のおかげでHIV/AIDSに対して誤った見方をすることなくこれまで向き合えてこれたと思います。高校生の頃に教わったことは、その後の人生にも残り、影響していくのだと改めて感じました。なので、授業では誤った認識を与えてしまわないよう十分に配慮し、自分自身ももっともっと知識を身に付けていきたいです。
11. 人前で話すことは苦手なため、講師を呼んで学校の実情をふまえて内容を打ち合わせしたり、企画したりすることが多いです。もう少し自分が人前で講義することは自信がないですが、予防教育はやり続けたいと思います。
12. まだまだ知識が乏しい。高校生を相手に講義をしたことがないので進め方が不安
13. 職場の理解として確認をしたわけではないが、まだまだ高校生に性に関する講義となると、保健師の領分と言われそう。まずは自施設、地域の病院や福祉施設からではないかと思う。今後、地域の健康福祉事務所と協力して、少しずつ進めていければ、...と思う。
14. 現実、職場では人員不足であり、余分に外部へ人員を出すことがむずかしくなっている。しかし私たち看護者が動かなくてどうするんだ！！という気持ちにはなっている。看護部の考え次第だろう。
15. 今までは思ったこともありませんでしたが、今後は自分自身のスキルを高めて、講義にかかわってみたいと思いました。
16. スライドであつたり、実際の授業の様子を見て、伝えることの難しさや工夫をたくさんしていることがわかった。現場のナースが実体験をもとに講義を行うことで興味をひきやすにのかなと感じた。私自身もHIVコーディネーターナースと共に、附属の看護学校へ看護学生をターゲットに出前授業をさせてもらったことがあり、少し知識のある看護学生に対しても教えることはとても難しかったです。今回の研修をふまえて今後に役立てていきたいと思います。2日間ありがとうございました。あ、あと今の大学生の方たちってものすごくしっかりしているなあ、...と感心していました。
17. 養護教諭という立場からみて、出前講義で看護職の方が来ていただいて医療のスペシャリストという立場から生徒に伝えていただくことはとても貴重な経験であると実感しています。今後はいろんな形の性と生につ

いての教育講話を企画していきたいと今回の研修に参加して考えました。看護職の方々のお力をお借りして、生徒たちに自分を大切にする気持ちを持って生きて欲しいと思います。

18. 学校教育は様々な地域の人材の協力を得て行う時代になっている。看護師の方々が学校に入り、エイズ・HIV・デートDV・LGBTなど様々な科学的な知識や技術を児童生徒の教育に貢献していただける素晴らしい制度であると考えます。学校側にも周知していきたい。
19. 学校に医療の専門職が積極的にかかわることは、これからの学校教育にはとても大切になると考えます。教員が生徒に対して指導することより、専門職が指導することの方が説得力があると考えます。そのためには、多くの人と連携をとることが必要になると考えます。
20. 看護職が高校生に出前講義を行うことは、学校側にとっても高校生にとっても非常に意義のあることだと思います。学校と看護職双方が理解しあい協力することが大切だと思います。
21. 学校は地域の専門職と協力連携して教育を進めていくことが求められている。チーム学校の一員として学校教育を行っていききたい。そのうえ、看護職の方々に助けていただきたい。今後は私が教育者として教育していきたい。しかし、1人ではなく、多くの専門職の方々とのつながりを大切にしていきたい。
22. 私では足りない点が多いので、看護職の方々が現場でのことを通してお話していただけるのはとてもありがたい。養護教諭だけでなく、かくの職種の方々と協力して、子どもたちを見守っていききたいと思う。
23. 誤った知識やネットでの情報だけで理解している状態を知り、なかなか教育現場では手に負えていないのだなとラ貯めて思いました。どんどん生徒たちが誤った知識が正解と思わないように、出前講義をどんどんできるように働きかけたいと思います。
24. 自分自身が高校生の時、学校の体育の先生や養護教諭の先生が性に関する教育をすることに対して抵抗を持っていました。普段から関わっている先生に自分の性に対する考えを知られることに恥ずかしさがありました。そのため、春から養護教諭そていどのように教育していこうか悩んでいましたが、今回この研修に参加することで医療従事者の手を借りれば、子どももある程度抵抗は減少すると思いました。
25. 学校現場で看護職の方が出前講義を行う際、事前教育がとても重要になってくると感じる。保健体育の授業で、妊娠などの内容をどのように教えているのか、高校生は性に対してどのような考え方なのかを知る必要がある。子ども一人一人が理解することは難しいが、少しでも興味を持って性について考える環境をつくるために教育を進めていきたい。

② 研修全般や HIV 看護についてのご意見をお書きください

（第 14 回）

1. 色々な方が講師として体験などをお話ししてくださり、HIV 看護、HIV 予防、患者さんへの関心が高まりました。ありがとうございました。
2. 始めてコンドームの使用方法を学び、それだけでも人に指導できると思います。コンドーム一つでも予防行動にはとても重要だと思いました。久しぶりの研修で新しい情報をたくさんもらい、外で学ぶことも必要だと思ったのと、一つでも行動に移せていけるようにならばります。
3. 今回、看護の現場や当事者の話を聞くことができ、紙面上でしか理解していなかったことがリアル感をもって「知識」として体得できました。このことはこれから団体や組織で健康教育する時の貴重な「宝」となります。ありがとうございました。
4. 性教育について、子どもたちの心は柔軟なので、教育者の大人が偏りがないようにしなければ。そういう大人に育てられると子どもたちもひっぱられる気がします。HIV について、検査を受けてもらうこと、受けた人でポジティブの人を医療に確実につなげ、その人らしく生活できる後押しをしたい。
5. 概論的な講義は今までも受けたことがありましたが、それ以上の興味深いお話が聞けたと思います。
6. 知識の深まりになりました。かかえていた課題の解決につながりました。情報交換の場にもなりました。
7. 参加させていただきとてもよかったです。学びをこれからも活かしていきたいです。しっかり自分の知識として職場へも伝えていけたらと思っています。ありがとうございました。
8. わかりやすい内容でとても勉強になりました。2日間で学んだ事は職場でも伝達していきたいと思います。まだまだ知識としては不十分なので、勉強します。
9. 2日間にわたり、HIV 看護につき、知識を深めることができました。分かりやすいご指導、ありがとうございました。
10. 2日間の研修で、参加しやすくよかった。HIV について新しい知識が増えて理解も広まった。職場でも啓発できるようにしたいと思う。
11. HIV の偏見が今も変わらずあるのはやはり、正しい知識の普及が追いついてないからだ実感しました。医療職・介護職に偏見があるのがおどろきです。とても勉強になりました。ありがとうございました。
12. 様々な方面から、たくさんの人に話していただき、学ぶことが多く、今後活かしていきたいと思いました。ありがとうございました。

(第15回)

1. 研修として、様々な立場で活躍している方の生の声を聴けたのが、とても良かったと思います。
2. 病棟に入院されている患者様でも HIV/AIDS = 「死」 と思っておられる方は少なくないと感じます。また若い入院患者様では、それほど重大な病気ではないと思っておられる人もいました。まだまだ広めていく必要がある。正しい知識を広めていく必要があると思います。
3. 慢性疾患と言われるようになってきたが、外来に来られる患者さんはまだまだ多くの悩みを抱えている人が多い。理解者となること、また理解者を増やしていくことは看護としても必要なことだと思う。HIVに限らず、職員（若いナース）でも性感染症で受診する子がちらほらいる。そしてセックスに対する認識がまちがっている子もいるので、やはり学生のうちに性教育をしっかり受けて欲しいと思います。
4. 母性の領域の座学は好きだったので、集中して授業を聴いていましたが、出前講義で伝えている側の立場や実際の HIV を持っている方の話を聞いて、もっと知識を増やしていきたいと思いました。とてもだいたいな内容であり、今回の研修に参加できて良かったです。ありがとうございました。
5. 他職種（養教、学生、その他）と交流が出来、今後の事業でもつながっていけるかかわりが持て、とても実のある研修でした。
6. 十分な知識を持つことは大切だが、それだけでなく、まずは対象者の思いや背景を理解しようとする姿勢がだいじだとわかった。あくまでも決定するのは対象者であることをふまえて、そこをしっかりとサポートできる人になりたいと感じた。
7. 一言で、楽しく聴くことができました。具体的なビジョンを描ける内容でした。ありがとうございました。
8. HIV や性感染は本当に奥深いと思いました。個々生き方や考え方の違いがある中で、予防教育は本当に大切に医療者だけでなく、すべての人が考えていかなければいけないと思いました。
9. 知っているようで知らなかったこともたくさんあり、また、いろんな職種の方と研修を受けることができ、とても貴重な時間となりました。HIV の知識を少しでも広げていけるような活動に自分も参加していきたいなと思います。
10. 研修では看護職に限ったものではなく、教育の視点や HIV 陽性者の事例についても学ぶことが出来ました。看護職としての立場からだけでなく、多方面からのアプローチが出来るのだと感じました。地域と教育現場の方とも連携をして、支援を考えて将来実践したいと思います。
11. 具体的な HIV 看護についてや、支援している団体の方、また HIV 患者の方の話をきくことができて、本当に良かったです。佐保先生の生き生きとした少し色気のある講義も楽しかったです。そんな自由な佐保先生（ごめんなさい）を見て、私ももっと自由に自分らしく生きられたら、仕事出来たらいいなと思いました。
12. もう少し、HIV の治療、検査、内服についての知識を高めたかった。本やネットでは学べない知識を得られた。
13. 自分たちで考えることも多く、楽しい研修だった。また、さまざまな職種の参加者がいたため、考え方や味方などもあり、勉強になった。
14. 席のちかくの方とは少しお話も出来たが、交流できる時間がほしいかなと思う。他施設の情報が欲しい。
15. とてもためになる2日間でした。まずは、自施設、まわりの地域の介護施設に対して知識を広めていきたいと思いました。ありがとうございました。
16. 研修を受講する前と後では、知識を全然といっていいほど、身に着けることができました。本当にありがとうございました。
17. 養護教諭を目指している学生さんや保健師さんなどナース以外の人の話を聞けて楽しかったです。
18. 研修に参加できてうれしかったです。今後に活かしていきます。ありがとうございました。
19. 充実した2日間でした。看護も教育（養護）も対人援助の基本は同じであり、エイズや HIV の患者さんへの支援は児童生徒にも通じるところが多く、勉強になりました。2日間本当にありがとうございました。
20. 性の多様性をもっともっと多くの人たちに理解されて、自分や他人を大切にできる人の育成をしたいと思いました。
21. HIV 陽性者にとって、人とのつながりはとても影響の大きいものだと感じました。また、HIV 陽性者だけでなく、すべての人が人とのつながりによって良くも悪くも影響を受けるのだと感じました。
22. 学びを深めていくたいせつさを実感した。コンドームの使い方は、HIV/AIDS ピアエデュケーションで学んだこととは少し異なり、常に最新情報を知ろうという意識を身に着けることができた。今の自分に満足せず、学び続ける養護教諭として活躍していきたい。
23. 多くの講師の方がお話をしてくださり、それぞれの意見や考えを学ぶことができ、私自身の知識を深めることができた。看護という面で私は知らないことが多い。これからこのような研修がある際には積極的に参加して学びを深めていきたい。
24. ここまで詳しくは学んだことがなかったので、とてもためになりました。正しい知識や今の状態など学ぶことができたので、学んだだけ、聞かれたら答えるだけではなく、どんどん自分から行動していき、これからも学び続けたいと思います。
25. HIV やエイズに関する知識が不十分であったことを痛

感じました。今まで性教育をする際、避妊を説明するということは性行為を許可しているということになるのではないかと考えていました。しかし、講義の中で「高校を卒業したら誰も教えてくれない」ということを聴いて、避妊の重要性などを教えておく意味が納得できました。同時に、目の前のことしか考えられていないことに気づかされました。こどもたちの未来に目を向

けた教育を心がけようと思いました。

26. 今まで HIV に対して深く考える機会がなかったので、とても充実した研修であった。一人一人考え方が違うので、どのように教育を行えばよいのか、これからも考え続けていきたい。また、様々な友人に2日間学んだことを伝えていきたい。(以上)

第 14 回 HIV サポートリーダー養成研修

研修目標	セクシュアリティ、HIV 感染症について広く学び、HIV 陽性者への初期対応、高校生への HIV 予防出前講義に必要な態度・知識・技術を得る		
期 間	平成 29 (2017) 年 6 月 9 日 (金) ～6 月 10 日 (土)		
対 象	看護師・助産師・保健師・養護教諭・看護学部生		
場 所	大阪府看護協会 桃谷研修センター		
募集人数	男女 30 名	受講料	無料 (交通費は自己負担)

プログラム

		講義名	講師名	施 設
第 1 日 金曜日	9 : 30-10 : 20	近畿・大阪の HIV 感染の現状	浦林純江	大阪市保健所感染症対策課 副主幹
	10 : 30-11 : 30	HIV の最新治療	白阪琢磨	国立大阪医療センター エイズ先端医療研究部長
	11 : 40-12 : 10	地域 H I V 看護の質の向上への戦略 受講者自己紹介	佐保美奈子	大阪府立大学看護学研究科 准教授
	12 : 10-13 : 10	昼休憩 (60 分) DVD 上映 「本気で CONDOMING」 「介護職向け」		
	13 : 10-14 : 20	性の多様性・思春期のセクシュアリティ (健康課題)	田村凌	虹色ナースネット 代表
	14 : 30-15 : 20	薬害エイズ	早坂典生	NPO 法人りょうちゃんず
	15 : 30-16 : 30	コンドーム達人講座 (知識と技術)	立花久裕	訪問看護ステーション 町の看護師さん八尾管理者
第 2 日 土曜日	9 : 30-10 : 30	HIV 陽性者の理解と初期対応	豊島裕子	大阪市立総合医療センター HIV 専従看護師
	10 : 40-12 : 00	DVD を使用した出前講義	大野典子	日生病院看護部 感染症看護専門看護師
	12 : 00-13 : 00	昼休憩 (60 分) DVD 上映 「看護職向け」 「養護教諭向け」		
	13 : 00-14 : 40	若者への HIV/AIDS 予防教育	南部道子	ピープルズ・ホープ・ジャパン 広報部
	14 : 50-15 : 40	HIV 陽性者の支援 (地域、ピア)	繁内幸治	BASE KOBE 代表
	15 : 50-16 : 30	まとめ 受講内容証明書・修了バッジ 授与		

本研修は、日本エイズ学会の HIV 感染症研究会の教育研修単位認定 (学会認定医・指導医および学会認定 HIV 感染症看護師・指導看護師、3 単位) の対象であり、厚生労働省エイズ対策政策研究事業、「H I V 感染症及びその合併症の課題を克服する研究」 (研究代表者：白阪琢磨) の分担研究「介護保険施設の HIV ケアと学校基盤の HIV 予防における拡大戦略の研究」 (研究分担者：佐保美奈子) の研究費により、(公社) 大阪府看護協会の協力を得て、開催されているものです。

第15回 HIV サポートリーダー養成研修

研修目標	セクシュアリティ、HIV 感染症について広く学び、HIV 陽性者への初期対応、高校生への HIV 予防出前講義に必要な態度・知識・技術を得る		
期 間	平成 29 (2017) 年 10 月 27 日 (金) ～10 月 28 日 (土)		
対 象	看護師・助産師・保健師・養護教諭・看護学部生		
場 所	大阪府看護協会 桃谷研修センター		
募集人数	男女 30 名	受講料	無料 (交通費は自己負担)

プログラム

		講義名	講師名	施 設
第 1 日 金曜日	9 : 30-10 : 20	近畿・大阪の HIV 感染の現状	浦林純江	大阪市保健所感染症対策課 副主幹
	10 : 30-11 : 30	性の多様性・思春期のセクシュアリティ (健康課題)	田村凌	虹色ナースネット 代表
	11 : 40-12 : 10	地域 HIV 看護の質の向上への戦略 受講者自己紹介	佐保美奈子	大阪府立大学看護学研究科 准教授
	12 : 10-13 : 10	昼休憩 (60 分) DVD 上映「本気で CONDOMING」「介護職向け」		
	13 : 10-14 : 20	HIV の最新治療	白阪琢磨	国立大阪医療センター エイズ先端医療研究部長
	14 : 30-15 : 20	薬害エイズ	早坂典生	NPO 法人りょうちゃんず
	15 : 30-16 : 30	コンドーム達人講座 (知識と技術)	佐保美奈子	大阪府立大学看護学研究科 准教授
第 2 日 土曜日	9 : 30-10 : 30	HIV 陽性者の理解と初期対応	豊島裕子	大阪市立総合医療センター HIV 専従看護師
	10 : 40-12 : 00	DVD を使用した出前講義	大野典子	日生病院看護部 感染症看護専門看護師
	12 : 00-13 : 00	昼休憩 (60 分) DVD 上映「看護職向け」「養護教諭向け」		
	13 : 00-14 : 40	若者への HIV/AIDS 予防教育	牧之内純子	ピープルズ・ホープ・ジャパン
	14 : 50-15 : 40	HIV 陽性者の支援 (地域、ピア)	繁内幸治	BASE KOBE 代表
	15 : 50-16 : 30	まとめ 受講内容証明書・修了バッジ 授与		

本研修は、日本エイズ学会の HIV 感染症研究会の教育研修単位認定 (学会認定医・指導医および学会認定 HIV 感染症看護師・指導看護師、3 単位) の対象であり、厚生労働省エイズ対策政策研究事業、「HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究」 (研究代表者：白阪琢磨) の分担研究「介護保険施設の HIV ケアと学校基盤の HIV 予防における拡大戦略の研究」 (研究分担者：佐保美奈子) の研究費により、(公社) 大阪府看護協会の協力を得て、開催されているものです。

第 15 回 HIV サポートリーダー養成研修 調査票

研修、お疲れ様でございました。この調査は、皆様のご意見を取り入れて、次年度の研修計画の検討をおこなうために実施するものです。この調査の結果については、厚生労働科研の報告書や関連学会で発表する予定ですが、個人が特定されるようなことはありません。報告書は次年度の 6 月に研究班のホームページにアップされ、PDF がダウンロードできますので、ご確認ください。記入後の調査票を、回収箱に投入していただくことによって、調査への同意とさせていただきます。同意しない場合は、破棄してください。

次の 1～3 について、項目ごとに該当する番号に○印をつけてください。

1. 研修目標の達成度について

研修目標：セクシュアリティ、HIV 感染症について広く学び、HIV 陽性者への初期対応、高校生への HIV 予防出前講義に必要な態度・知識・技術を得る

1 達成できた	2 ほぼ達成できた	3 一部達成できた	4 達成できなかった
---------	-----------	-----------	------------

2. 講義の内容の理解について

	【理解の程度】 1. 理解できた 2. ほぼ理解できた 3. 一部理解できた 4. 理解できなかった			
1 日目	近畿・大阪の HIV 感染の現状	1・2・3・4		
	性の多様性・思春期のセクシュアリティ（健康課題）	1・2・3・4		
	HIV の最新治療	1・2・3・4		
	薬害エイズ	1・2・3・4		
	コンドーム達人講座（知識と技術）	1・2・3・4		
2 日目	HIV 陽性者の理解と初期対応	1・2・3・4		
	DVD を使用した出前講義	1・2・3・4		
	若者への HIV/AIDS 予防教育	1・2・3・4		
	HIV 陽性者の支援（地域、ピア）	1・2・3・4		

3. 研修前後の自分自身の態度の変化について

1. 大いにそう思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない 4. まったくそう思わない		
	研修前	研修後
1 性のことを人前で話すのは恥ずかしい	1・2・3・4	1・2・3・4
2 自分自身の性についてきちんと向き合っている	1・2・3・4	1・2・3・4
3 HIV 看護について興味を持っている	1・2・3・4	1・2・3・4
4 性欲は基本的な欲求の一つであり大切にしたい	1・2・3・4	1・2・3・4
5 HIV 予防教育の出前講義に積極的に関わりたい	1・2・3・4	1・2・3・4
6 セクシュアルヘルスの増進について学びたい	1・2・3・4	1・2・3・4
7 職場で、HIV 陽性者のケアへの準備をしたい	1・2・3・4	1・2・3・4
8 グローバルな広い視点で看護を考えている	1・2・3・4	1・2・3・4
9 他者と深く関わることは喜びである	1・2・3・4	1・2・3・4

4. 看護職が地域の高校生に出前講義をおこなうことについて、職場の理解・自分自身の課題など自由にご意見をお書きください。

5. 研修全般や HIV 看護についてのご意見をお書きください

調査票へのご記入をありがとうございました。